

2009年度 工学部デザイン学科 授業科目一覧表

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
T1P001001	デザイン学セミナー	2.0	1年後期水曜 1限	各教員	デザ 2
T1P002001	図学演習	2.0	1年前期月曜 3限	寺内 文雄他	デザ 2
T1P003001	統合デザイン実習 I	2.0	1年前期月曜 4,5限	青木 弘行他	デザ 3
T1P004001	デザイン造形実習 I	2.0	1年前期水曜 4,5限	田内 隆利他	デザ 3
T1P005001	デザイン論 I	2.0	1年前期火曜 3限	渡邊 誠他	デザ 4
T1P006001	デザイン造形実習 II	2.0	1年後期火曜 4,5限	田内 隆利他	デザ 5
T1P007001	統合デザイン実習 II	2.0	1年後期月曜 4,5限	渡邊 誠他	デザ 6
T1P008001	統合デザイン実習 III	2.0	1年後期金曜 4,5限	渡邊 誠他	デザ 7
T1P009001	デザイン論 II	2.0	1年後期火曜 2限	渡邊 誠他	デザ 7
T1P010001	デザイン科学 I	2.0	1年後期水曜 3限	青木 弘行他	デザ 8
T1Y016001	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	植田 憲	デザ 9
T1Y016002	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	田内 隆利	デザ 10
T1Y016003	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	玉垣 庸一他	デザ 10
T1Y016004	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	福川 裕一	デザ 11
T1Y016005	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	UEDA EDILSON SHINDI	デザ 11
T1P011001	デザイン科学 II	2.0	2年前期水曜 3限	勝浦 哲夫他	デザ 12
T1P012001	立体デザイン造形	3.0	2年前期金曜 3限 2年前期金曜 4限前半	久保 光徳他	デザ 13
T1P013001	形の工学	2.0	2年前期水曜 1限	久保 光徳	デザ 13
T1P014001	工業デザイン I	3.0	2年前期木曜 4限後半 2年前期木曜 5限	(久米 寿明)	デザ 14
T1P015001	トランスポーターデザイン I	3.0	2年前期月曜 4限後半 2年前期月曜 5限	小原 康裕	デザ 15
T1P016001	環境デザイン I	3.0	2年前期金曜 4限後半 2年前期金曜 5限	(藤本 香) 他	デザ 16
T1P017001	コミュニケーションデザイン I	3.0	2年前期水曜 4,5限	玉垣 庸一他	デザ 17
T1P018001	デザイン科学演習 I	3.0	2年前期月曜 1限後半 2年前期月曜 2限	青木 弘行他	デザ 17
T1P019001	工業デザイン II	3.0	2年後期木曜 4限後半 2年後期木曜 5限	渡邊 誠他	デザ 18
T1P020001	トランスポーターデザイン II	3.0	2年後期木曜 3限 2年後期木曜 4限前半	(野村 薫) 他	デザ 19
T1P021001	環境デザイン II	3.0	2年後期金曜 3限 2年後期金曜 4限前半	佐藤 公信	デザ 19
T1P022001	コミュニケーションデザイン II	3.0	2年後期水曜 4限後半 2年後期水曜 5限	(海保 透) 他	デザ 19
T1P023001	デザイン科学演習 II	3.0	2年後期金曜 1限後半 2年後期金曜 2限	青木 弘行他	デザ 20
T1P024001	デザインの展望	2.0	2年後期火曜 5限	佐藤 公信	デザ 21
T1P025001	ヒューマンインタフェース論	2.0	2年後期水曜 2限	岩永 光一他	デザ 21
T1P026001	デザイン材料	2.0	2年後期水曜 3限	青木 弘行他	デザ 22
T1P027001	デザイン文化論	2.0	2年後期火曜 2限	鈴木 直人他	デザ 23
T1P028001	プログラミング演習 I	3.0	2年後期金曜 4限後半 2年後期金曜 5限	中西 美和	デザ 24
T1P029001	平面デザイン造形	3.0	2年後期月曜 1限後半 2年後期月曜 2限	田内 隆利他	デザ 24

T1P001001

授業科目名：デザイン学セミナー
 科目英訳名：Seminar: Introduction to Design
 担当教員：各教員
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：1 年後期水曜 1 限
 授業コード：T1P001001
 講義室：工 2 号棟 102 教室

科目区分

2009 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[目的・目標] セミナー形式の授業を通じて各教員の教育研究内容に触れることにより、デザイン領域での研究、実践に対する基本的理解を深めて行くとともに、少人数セミナーであることを活かし、学生と教員のコミュニケーションの基盤を形成することを目標とする。

[授業計画・授業内容] 各教員は配分されたグループ(3～4名の学生)を全期間にわたって受け持ち、セミナー形式の授業を行う。全体のプロデューサ役は学年担任が務める。授業形態は、各教員が定めた課題についての実験、実習、調査ならびに考察、結果のまとめ・日々の生活体験や市場調査、現地調査にもとづく問題の発掘、ならびに解決に向けたデザイン提案・工場、施設などの見学を通じ、デザイン現場における生産、技術についてレポートなど、教員により様々な展開が考えられるが、その目指す方向は同じである。すなわち受講生は、デザイン工学科意匠系における勉学の方式や態度、問題意識や関心の持ち方などについて、きめ細かい教育、指導のもと、教員と一体となって思考し、今後の学生生活の展望を得るよう努めなければならない。各グループ単位での少人数授業が原則であるが、グループどうしが合流した全体討論や見学会など、担当教員が所属する分野単位での授業形態が適宜取り入れられることもある。また、授業形態によっては時間割外の時間に行うことがある。

[評価方法・基準] 課題、レポートおよび討論により成績評価を行う。

[履修要件] 必修

[備考] 第一回目の授業でグループを決定する。第二回目以降の授業時間帯については、担当教員と受講生で相談の上、その都度決定する。

T1P002001

授業科目名：図学演習
 科目英訳名：Descriptive Geometry (Lec & Lab)
 担当教員：寺内 文雄, 小野 健太, 八馬 智
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：1 年前期月曜 3 限
 授業コード：T1P002001
 講義室：工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2009 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 形態の理解・表現・伝達を行うための基礎的図法を、理論と実践を通じて学ぶ。具体的には、投影法の習得、副投影・切断・相貫による図形解析、JIS 規格に基づく機械製図、透視図法による立体物の作図、実製品の形態解釈を行う。なお、本授業は統合デザイン実習 I と連携して進める。

[目的・目標] 形態の表示手法の基礎技術を習得しながら、形態を探索するために必要となる立体把握の能力を養う。

[授業計画・授業内容]

1. 投影法の基礎
2. 副投影・切断・相貫による立体の図形解析
3. JIS 規格に基づく機械製図
4. 二点透視図法
5. 実製品の形の成り立ち

[キーワード] 第 3 角法, JIS 製図法, 透視図法

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 課題提出、出席回数

[関連科目] 統合デザイン実習 I(*p. デザ 3* T1P003001)

[履修要件] 必修

T1P003001

授業科目名：統合デザイン実習 I
 科目英訳名：Integrated Design Practice I
 担当教員：青木 弘行, 岩永 光一, 寺内 文雄, 下村 義弘, 小野 健太, 八馬 智
 単位数：2.0 単位 開講時限等：1 年前期月曜 4,5 限
 授業コード：T1P003001, T1P003002 講義室：工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2009 年入学生：専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 人工物デザインの基盤には、科学的理解と実践的理解が求められる。実際の製品の成り立ちやそれを使う人間についての科学的方法に関する講義、および、形態を思考・伝達するための実践的な表示方法についての実習を行う。なお、本授業は図学演習と連携して進める。

[目的・目標] ものや人に対する観察と描画を通じて、デザイン行為に必要な思考技術と表示技術の基礎を習得する。

[授業計画・授業内容]

1. ものの成り立ち (材料)
2. ものの成り立ち (加工)
3. ものと人の関係 (人間工学)
4. 人の大きさとプロポーション (人体計測)
5. 人の動きと構造 (筋電測定)
6. 基本図形の描画
7. 色鉛筆による質感表現
8. ラインドローイングによる形態把握
9. マーカーによる立体表現
10. キャプションと人物による情報伝達

[キーワード] デザイン, 表示, 表現

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 課題提出、出席回数

[関連科目] 図学演習 (*p. デザ 2* T1P002001)

[履修要件] 必修

T1P004001

授業科目名：デザイン造形実習 I
 科目英訳名：Practicum in design fundamentals I
 担当教員：田内 隆利, (清原 明生), 玉垣 庸一, 桐谷 佳恵
 単位数：2.0 単位 開講時限等：1 年前期水曜 4,5 限
 授業コード：T1P004001, T1P004002 講義室：創造工学センター, 工 2-アトリエ (2-601),
 創造工学センター, 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2009 年入学生：専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 色彩構成やデッサンの実習を通してデザインの基礎能力を身につける

[目的・目標] 色彩の理解、色彩表現力、描写力、平面構成力の基礎を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 明度差の習作
2. 明度のグラデーションの習作
3. 彩度のグラデーションの習作
4. 色相環の習作
5. 前 4 課題の総括
6. モノクロームとカラーの習作
7. 色彩統一性の習作
8. 同上
9. 色彩の研究と再構成
10. 同上
11. 静物デッサン
12. 同上
13. 構成デッサン
14. 同上
15. 講評

[キーワード] デッサン、色、形

[教科書・参考書] デザイナーとアーティストのために色彩教室「COLOR WORKSHOP」発行：BNN 新社

[評価方法・基準] 各課題の期限内提出の有無及び課題目的への達成度。出席 4/5 以上が条件。

[履修要件] 必修

[備考] 「デザイン造形実習�」と「デザイン造形実習�」を併せて平成 16 年度までに開講されていた「基礎造形演習」の読み替え科目になる。

T1P005001

授業科目名：デザイン論 I

科目英訳名：Theory of design I

担当教員：渡邊 誠, 樋口 孝之

単位数：2.0 単位

開講時限等：1 年前期火曜 3 限

授業コード：T1P005001

講義室：工 2 号棟 201 教室

科目区分

2009 年入学生：専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] デザイン工学科意匠系におけるデザイン教育の視点、デザインの役割、我が国のデザインの特徴、近代デザインの歴史等について論述する。

[目的・目標] デザインの社会的使命、目的、デザインにおける用と美、伝統工芸、循環型社会のデザイン、デザインの歴史等について理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. デザインを学ぶということ、デザイン工学科の歩み
2. 用と美、その統合としてのデザイン
3. 時間・空間のデザイン / 日本の美の普遍性
4. 伝統的工芸とデザイン / 日本のアイデンティティ
5. 循環型社会のデザイン

6. デザインと地域政策
7. 文化としてのデザイン
8. デザインの歴史を学ぶということ
9. 機械化時代の到来と生活の芸術化
10. グラスゴー派、Art Nouveau、ユーゲントシュティル、ウィーン分離派
11. ベーレンスと AEG、D.W.B. (工業化と規格化)
12. Bauhaus I
13. Bauhaus II
14. 日本におけるデザインの歴史
15. 最終試験

[キーワード] デザイン, 用と美, 伝統工芸, 循環型社会, デザイン史

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する

[評価方法・基準] 出席 (毎回出席をチェックする): 30 %、レポート課題: 30 %、試験: 40 %

[関連科目] デザイン論 II、デザイン科学 I、デザイン科学 II

[履修要件] 必修

[備考] 平成 16 年度まで開講されていた「デザインの歴史」の読み替え科目である。

T1P006001

授業科目名: デザイン造形実習 II

科目英訳名: Practicum in design fundamentals II

担当教員: 田内 隆利, 原 寛道

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 1 年後期火曜 4,5 限

授業コード: T1P006001, T1P006002

講義室: 工 2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601), 工
2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2009 年入学生: 専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン工学科意匠系 1 年生

[授業概要] 基礎的な立体構成のエクササイズを多数行いながらステップアップし、形の見方を習得する。また、前期に行った石膏デッサンのモチーフである石膏像を粘土で模刻し、立体を把握するための訓練をする。

[目的・目標] 立体造形の構成要素は、「面」「量」「空間」であり、その構造は「幅」「奥行き」「高さ」からなる。この実習ではそれらを順を追って説明し課題を制作することによって「形の成り立ち」を見る力を養い、立体造形に関わる基礎的な造形力を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 授業の説明、立体構成についての講義
2. 第 1 課題: 3 つの直方体による構成
3. 講評
4. 第 2 課題: 多数の直方体による構成
5. 同上
6. 第 3 課題: 平面図面を元にした立体構成
7. 同上
8. 第 2、第 3 課題講評
9. 第 4 課題: 石膏像模刻
10. 同上
11. 同上
12. 同上

13. 同上
14. 同上
15. 講評

[キーワード] モデリング、立体構成

[教科書・参考書] ゲイル・グリート・ハナ(著)、今竹翠(翻訳、監修): エレメンツ・オブ・デザイン, 美術出版社
2006年

[評価方法・基準] 課題期限内提出の有無及び課題目的への達成度、出席日数 4/5 以上が条件

[履修要件] 必修

[備考] 「デザイン造形実習Ⅰ」と「デザイン造形実習Ⅱ」を併せて平成16年度まで開講されていた「基礎造形演習」の読み替え科目になる。

T1P007001

授業科目名: 統合デザイン実習Ⅱ

科目英訳名: Integrated Design Practice II

担当教員: 渡邊 誠, 小野 健太, 八馬 智, 玉垣 庸一, 佐藤 公信, 原 寛道, 小原 康裕

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 1 年後期月曜 4,5 限

授業コード: T1P007001, T1P007002

講義室: 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2009 年入学生: 専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 生活の中にある工業製品を対象に、デザインに関する一連のプロセスを体験する。まず、具体的な製品のデザインを行い、その製品と人を結びつけるためのグラフィックのデザインを行い、その製品を引き立てる空間のデザインを行う。最終的にそれらを統合したプレゼンテーションを行う。なお、本授業は統合デザイン実習Ⅱと連携して進める。

[目的・目標] 工業製品を取り巻く基本的な知識、メディアや空間の果たす役割、表示手法に関する基礎的能力などを習得しながら、自ら問題を見つけて解決するための想像力と創造力を高める。

[授業計画・授業内容]

1. 製品コンセプトの構築
2. デザインアイデア展開
3. デザインチューニング
4. 図面制作
5. ロゴマークデザイン
6. 製品レンダリング
7. 広告物デザイン
8. 広告物デザイン
9. 空間配置計画
10. 展示空間デザイン
11. 模型・パース制作
12. 図面制作
13. プレゼンテーション資料・モックアップ制作
14. チュートリアル
15. 最終プレゼンテーション

[キーワード] 製品デザイン, グラフィックデザイン, 空間デザイン

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 課題提出、出席回数

[関連科目] 統合デザイン実習Ⅲ(p. デザ 7 T1P008001)

[履修要件] 必修

T1P008001

授業科目名：統合デザイン実習 III
 科目英訳名：Integrated Design Practice III
 担当教員：渡邊 誠, 小野 健太, 八馬 智, 玉垣 庸一, 佐藤 公信, 原 寛道, 小原 康裕
 単位数：2.0 単位 開講時限等：1 年後期金曜 4,5 限
 授業コード：T1P008001, T1P008002 講義室：工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2009 年入学生：専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 生活の中にある工業製品を対象に、デザインに関する一連のプロセスを体験する。まず、具体的な製品のデザインを行い、その製品と人を結びつけるためのグラフィックのデザインを行い、その製品を引き立てる空間のデザインを行う。最終的にそれらを統合したプレゼンテーションを行う。なお、本授業は統合デザイン実習 II と連携して進める。

[目的・目標] 工業製品を取り巻く基本的な知識、メディアや空間の果たす役割、表示手法に関する基礎的能力などを習得しながら、自ら問題を見つけて解決するための想像力と創造力を高める。

[授業計画・授業内容]

1. 製品コンセプトの構築
2. デザインアイデア展開
3. デザインチューニング
4. 中間プレゼンテーション
5. ロゴマークデザイン
6. 製品レダリング
7. 広告物デザイン
8. 中間プレゼンテーション
9. 空間配置計画
10. 展示空間デザイン
11. 模型・パース制作
12. 中間プレゼンテーション
13. プレゼンテーション資料・モックアップ制作
14. チュートリアル
15. 最終プレゼンテーション

[キーワード] 製品デザイン, グラフィックデザイン, 空間デザイン

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 課題提出、出席回数

[関連科目] 統合デザイン実習 II (p. デザ 6 T1P007001)

[履修要件] 必修

T1P009001

授業科目名：デザイン論 II
 科目英訳名：Theory of design II
 担当教員：渡邊 誠, 玉垣 庸一, 佐藤 公信
 単位数：2.0 単位 開講時限等：1 年後期火曜 2 限
 授業コード：T1P009001 講義室：工 2 号棟 202 教室

科目区分

2009 年入学生: 専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 75 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] デザインに関する人・もの・環境と産業の枠組みの基礎概念を学ぶ

[目的・目標] デザインに関わる枠組み・歴史・プロセス・産業の諸要件の涵養を目指し、産業製品の計画に関わる人、製品。環境に関わる諸事象の調査開発に関する知識について理解を深める。

[授業計画・授業内容]

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する

[評価方法・基準] 出席 (毎回出席をチェックする):

[関連科目] デザイン論 I、デザイン科学 I、デザイン科学 II

[履修要件] 必修

T1P010001

授業科目名: デザイン科学 I

科目英訳名: Design Science I

担当教員: 青木 弘行, 岩永 光一

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 1 年後期水曜 3 限

授業コード: T1P010001

講義室: 工 2 号棟 202 教室

科目区分

2009 年入学生: 専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 75 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] デザインの対象である人間の生活について、人間の生物科学的特性と環境との関係から論述する。また、デザインされた人工物の物理特性や材料生産技術、感性的な特性等について論述する。

[目的・目標] デザインの対象である人工物と人間特性との関係に対する基本的知識を学習する。人間特性に関しては、人間と環境との関わりの理解とデザインへの応用について考察できる基礎的能力を育成する。人工物に関しては、人工物の物理的特性、生産方法、感性評価等に関する理解とデザインへの応用能力を育成することを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. デザイン科学としての人間科学
2. 人間と生活環境 (1): 生物学的適応
3. 人間と生活環境 (2): 文化的適応
4. 生活者としての人間 (1): 快適性
5. 生活者としての人間 (2): 人間生活とデザイン
6. 人体の構造と機能 (1): 人体寸法とデザイン
7. 人体の構造と機能 (2): 情報処理特性とデザイン
8. デザインの対象としての人工物の捉え方。固有特性と属性
9. 人工物の形態と製造条件
10. 人工物の経済的特性
11. 人工物と環境問題
12. 人工物の感性・感覚的特性
13. 人工物の物理・化学的特性
14. 先端技術と人工物開発
15. テスト

[キーワード] 人間行動、人工物、観察、計測、感覚的特性、先端技術

[教科書・参考書] 「工業デザインのための材料知識」, 岩井, 青木著, 日刊工業新聞社 / その他は授業時に指示する。

[評価方法・基準] 出席数、レポートの提出の内容、テストによる授業の理解度

[関連科目] デザイン論 I、デザイン論 II、デザイン科学 II

[履修要件] 必修

[備考] 平成 15 年度まで開講されていた「材料計画論 [T1F008001]」の読み替え科目である。

T1Y016001

授業科目名：造形演習

科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)

担当教員：植田 憲

単位数：2.0 単位

開講時限等：1 年前期火曜 5 限

授業コード：T1Y016001

講義室：工 2 号棟 201 教室

科目区分

2009 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 「工学」とは「ものづくり」であり、「ものづくり」とは「造形」である。「造形演習」は、いくつかの「造形」に関する課題を通して、「工学=ものづくり」に対する関心を鼓舞し、学生のひとりひとりが有する造形の資質を覚醒する。

[目的・目標] 本演習の具体的な目的は、以下のようである。(1)「学び取る」姿勢を培う。(2) 多面的な観察能力を養う。(3) 多様な解の存在を認識する。(4) プレゼンテーション能力を涵養する。「造形演習」の 4 つの課題のひとつには、限られた時間のなかで精一杯にチャレンジし、満足するまで成し遂げることが求められている。頭脳と手とを連動させ、「手を動かし、汗をかき、想いをめぐらし、創る」まさに「手汗想創」を体感する。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け
2. 第 1 課題：「鉛筆による精密描写」
3. 第 1 課題の演習
4. 第 1 課題の講評
5. 第 2 課題：「展開図に基づいた立体物の描写」
6. 第 2 課題の演習
7. 第 2 課題の講評
8. 中間発表会
9. 第 3 課題：「卓上ランプシェードの制作」
10. 第 3 課題の演習
11. 第 3 課題の講評
12. 第 4 課題：「飛行体の造形」
13. 第 4 課題の演習
14. 第 4 課題の講評
15. 展示会

[キーワード] 観察・思索, デザイン, 手汗想創, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 特にありません。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] 特にありません。

[履修要件] 特にありません。

[備考] 特にありません。

T1Y016002

授業科目名：造形演習
 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)
 担当教員：田内 隆利
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1Y016002

開講時限等：1 年前期火曜 5 限
 講義室：創造工学センター

科目区分

2009 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通して修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け
2. 第 1 課題：「鉛筆による手の描写」
3. 第 1 課題の演習
4. 第 1 課題の演習・講評
5. 第 2 課題：「三面図に基づいた立体物の描写」
6. 第 2 課題の演習・講評
7. 第 3 課題：「紙サンダルの制作」
8. 第 3 課題の演習：調査結果に基づく制作物のプレゼンテーション
9. 第 3 課題の演習：制作
10. 第 3 課題の発表
11. 第 4 課題：「ゴム動力車の制作」
12. 第 4 課題の演習：調査結果に基づく制作物のプレゼンテーション
13. 第 4 課題の演習：制作
14. 第 4 課題の発表
15. 展示会

[評価方法・基準]

[備考] 創造工学センターはサンダルやヒールの高い靴厳禁。

T1Y016003

授業科目名：造形演習
 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)
 担当教員：玉垣 庸一, 下村 義弘
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1Y016003

開講時限等：1 年前期火曜 5 限
 講義室：工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2009 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

T1Y016004

授業科目名：造形演習	
科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)	
担当教員：福川 裕一	
単位数：2.0 単位	開講時限等：1 年前期火曜 5 限
授業コード：T1Y016004	講義室：工 15 号棟 110 教室

科目区分

2009 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

T1Y016005

授業科目名：造形演習	
科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)	
担当教員：UEDA EDILSON SHINDI	
単位数：2.0 単位	開講時限等：1 年前期火曜 5 限
授業コード：T1Y016005	講義室：工 17 号棟 213 教室

科目区分

2009 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け
2. 第 1 課題：「鉛筆による精密描写」
3. 第 1 課題の演習
4. 第 1 課題の講評
5. 第 2 課題：「展開図に基づいた立体物の描写」
6. 第 2 課題の演習
7. 第 2 課題の講評
8. 中間発表会

9. 第3課題:「水」「火」「土」「風」のテーマから一つを選び、自由に形を創ろう
10. 第3課題の演習
11. 第3課題の講評
12. 第4課題:「水」「火」「土」「風」のテーマから一つを選び、新しいデザインコンセプトを作成する
13. 第4課題の演習
14. 第4課題の講評
15. 展示会

[キーワード] 観察・思索, デザイン, 手汗想創, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 特にありません。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] 特にありません。

[履修要件] 特にありません。

[備考] 特にありません。

T1P011001

授業科目名: デザイン科学 II 科目英訳名: Design Science II 担当教員: 勝浦 哲夫, 日比野 治雄 単位数: 2.0 単位 授業コード: T1P011001	開講時限等: 2 年前期水曜 3 限 講義室: 工 2 号棟 201 教室
--	--

科目区分

2008 年入学生: 専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 90 名程度

[受講対象] 学部他学科生 履修可

[授業概要] デザインを行う上で欠かすことのできない人間の構造・生理・心理について、その基本的知識と応用手法を学習する。特に人間工学、心理学の観点からデザインする能力を養成する。

[目的・目標] デザインに関わる諸問題を考察する場合には、人間について十分な知識を有することが必須条件である。そこで、人間を扱うための基礎となる人間工学的観点および心理学的視点の涵養を目指し、その初歩から応用までを概観する。真の意味で人間に優しいデザインを考えることのできる能力を習得することが目標である。

[授業計画・授業内容] 人間にとって使いやすい機器をデザインするためには人間の生理的・心理的特性の理解が必要である。本授業では身体運動機能に関する人間工学及びデザイン心理学に関する入門的な内容を中心に講義を行う。

1. 心理学の視点からデザインを考える - デザイン心理学とは
2. 人間の知覚特性
3. 視知覚に関わる問題 (1)
4. 視知覚に関わる問題 (2)
5. 視知覚以外の知覚に関わる問題
6. デザイン心理学の応用的側面・まとめ
7. 中間試験
8. 人間工学とはなにか
9. 手の働きと製品デザイン
10. 製品人間工学の事例 (1)
11. 製品人間工学の事例 (2)
12. 筋の構造と筋収縮 (1)
13. 筋の構造と筋収縮 (2)
14. 筋活動の測定と評価
15. 期末試験

[キーワード] 人間, 人間工学, 身体構造, 生理機能, 心理学, 知覚

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する

[評価方法・基準] 中間試験、期末試験の成績を総合して評価する

[関連科目] デザイン論 I、デザイン論 II、デザイン科学 I

[履修要件] 必修

T1P012001

授業科目名：立体デザイン造形 科目英訳名：Solid Design Forming 担当教員：久保 光徳, 樋口 孝之, UEDA EDILSON SHINDI 単位数：3.0 単位 授業コード：T1P012001, T1P012002	開講時限等：2 年前期金曜 3 限 / 2 年前期金曜 4 限前半 講義室：工 2-アトリエ (2-601)
--	---

科目区分

2008 年入学生：専門選択科目 F36 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 演習

[受入人数] 60

[授業概要] 基礎的な立体構成のエクササイズを多数行いながら習得する。

[目的・目標] デザインにおける立体造形力の基礎となるモデリング技術、立体構成力を身につけること、また、材料特性を理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 第 1 課題：曲面の構成をもつ量塊の造形 (樋口)
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. プレゼン、講評
6. 第 2 課題：「膨らみと窪み」をテーマとして立体造形の制作 (UEDA E.)
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. プレゼン、講評
11. 第 3 課題：段ボールスツールの制作 (久保)
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. プレゼン、講評

[キーワード] 立体構成、立体把握、モデリング

[教科書・参考書] ゲイル・グリート・ハナ (著)、今竹翠 (翻訳、監修): エレメンツ・オブ・デザイン, 美術出版社 2006 年

[評価方法・基準] 構成力、完成度、アイデア、出席日数を総合的に見て判断する

T1P013001

授業科目名：形の工学 科目英訳名：Engineering of Form and Shape 担当教員：久保 光徳 単位数：2.0 単位 授業コード：T1P013001	(千葉工大開放科目) 開講時限等：2 年前期水曜 1 限 講義室：工 2 号棟 201 教室
--	--

科目区分

2008 年入学生：専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 50

[受講対象] デザイン工学科意匠系 2 年次学生

[授業概要] 材料力学および構造力学の初等的な考え方・手法を用いて、モノに見られる「形と力」の関係を基盤とした“ものづくり”における工学的感覚について考えさせ、体験させることを重要視している。そのため、講義形式のみではなく適宜必要に応じて小演習を組み込んで行く。

[目的・目標] 形が有する意味とその特質を工学的な視点から理解する。形の解釈に際しては材料力学・構造力学・機構学を基盤に据え、材料力学からは基本単位形態の力学的特性、構造力学からは部分と全体の力学的関係、機構学からは動的特性との関連について理解する。

[授業計画・授業内容] 講義中心に小演習を行いながら「形と力」の関係を体得させることを目的として以下のような授業内容を計画している。

1. 形と力の関係に対する直感的導入：長いヒモと短いヒモ；太い柱と細い柱
2. 外力と内力：力を伝えるものとその変形：伸び、縮み、曲げ、せん断
3. 引張に対する形：紙帯に対する検討：E と ν ；懸垂曲線；テンション構造
4. 圧縮に耐える形：平等強さの形
5. 座屈の形：身近な不安定現象
6. 曲げと圧縮に耐える形：二つのアーチ；境界条件と形；トラスとラーメン
7. 円筒形とシェル構造の形：円筒およびシェル構造；シャボン膜構造；膜と板
8. CADによる単純構造の作成とFEMによる構造解析 1 - 紙引きバトル?
9. CADによる単純構造の作成とFEMによる構造解析 2 - 紙引きバトル?
10. 自然物の形と力：枝・竹・骨の形に対する解釈
11. 人工物の形と力：ハニカムとFRP
12. 動作するモノの制作：CAD/CAE/CAMを用いた簡易構造体の制作 1
13. 動作するモノの制作：CAD/CAE/CAMを用いた簡易構造体の制作 2
14. 形に見られる力学性
15. 「まとめ」および試験もしくは制作

[キーワード] 形と力，構造，機構

[教科書・参考書] 授業中に紹介する。

[評価方法・基準] 複数回の小レポートと試験

[関連科目] 物理学 B 力学入門

[履修要件] 特になし。

[備考] 授業の進行に伴い、演習色の強い内容は授業時間以外の枠で実施する。平成 16 年度まで開講されていた「造形力学論」の読み替え科目である。

T1P014001

授業科目名：工業デザイン I

科目英訳名：

担当教員：(久米 寿明)

単位数：3.0 単位

授業コード：T1P014001, T1P014002

開講時限等：2 年前期木曜 4 限後半 / 2 年前期木曜 5 限

講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分

2008 年入学生：専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 製品のデザイン演習を通じ、プロダクトデザインのプロセス全般を習得。

[目的・目標] 工業デザイン I では、プロダクトデザイナーとして必要な知識や表現方法の基礎を習得する。特にターゲット設定やコンセプト立案といったプロダクトデザインにとって、最も本質的かつ重要な能力の習得を目標とする。

[授業計画・授業内容] 基本的に毎回課題の個人発表と意見交換を行い、プレゼンテーション能力とコミュニケーション力の向上を目指す。

1. ガイダンス 「課題テーマと事例紹介」
2. ターゲット設定 「欲しがる人、欲しがるモノ」
3. コンセプトの構築 「コンセプトの魅力」
4. アイデアスケッチ 「カタチのパフォーマンス」
5. イメージスケッチ 「カタチのアフォーダンス」
6. コンストラクション 「機能割付け・サイズ・部品レイアウト」
7. スタイリング 「モチーフ・デフォルメ」
8. レンダリング 「線の強弱、質感の表現」
9. インターフェース 「コンテンツの表現、使用性」
10. コンテキスト 「デザインの関係性 ネーミングから宣伝販促まで」
11. モック作成
12. 中間プレゼンテーション
13. リファイン・コンセプトの決定
14. リファイン・デザインの作成
15. 最終プレゼンテーション

[キーワード] 商品性、市場性、独創性、誘発、カタチ、発見

[教科書・参考書] 「デザインの生態学」 深沢直人 東京書籍 「デザインのデザイン」 原研哉 岩波書店

[評価方法・基準] 課題提出およびプレゼンテーション

T1P015001

授業科目名：トランスポーターデザインⅠ

科目英訳名：

担当教員：小原 康裕

単位数：3.0 単位

開講時限等：2 年前期月曜 4 限後半 / 2 年前期月曜 5 限

授業コード：T1P015001, T1P015002

講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分

2008 年入学生：専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 30 人

[受講対象] 学部他学科生 履修可

[授業概要] 交通機器に係わるトランスポーター機器、特に自動車の造形演習を通してデザインの基礎・プロセスを学ぶ。

[目的・目標] 以下のプロセスを通してデザインの基礎・プロセスを学び動機づけを行う。1) スケッチ・レンダリング技法の基礎と習熟 2) 造形モチーフからアイデアの発想・展開 3) コンセプトとアイデア展開 4) モデリングプロセスの基礎 5) プレゼンテーション

[授業計画・授業内容] デザインの基礎技法(スケッチ・レンダリング・モデリング)とプロセスの演習を通して、トランスポーターデザインの動機付けを行う。毎回演習の宿題により予習

1. 自動車の実車を鉛筆で写生描画
2. 雑誌・写真の自動車を模写
3. 自動車の基礎的表示技法・図法の講義
4. 雑誌・写真の自動車を模写
5. 造形モチーフをベースとするアイデアの集中展開
6. 同上
7. 選択した造形モチーフによる自動車のアイデアスケッチ
8. アイデアスケッチの方向付け
9. ケッチの PC ソフトによる修正・色づけなどの基礎技法
10. 同上

11. スケッチのレンダリング
12. レンダリングの縮尺外形製図 (1/10)
13. 発砲素材によるモデリング
14. 夏休みを利用したモデリング
15. 発砲素材によるモデリング
16. 合同評価会 (プレゼンテーション)

[キーワード] 基礎自動車デザイン、モチーフとスタイル、デザインプロセス

[教科書・参考書] 自動車表示図法 (小冊子) 参考スケッチ・レンダリング

[評価方法・基準] 出席率 (8割) 課題スケッチモデルプレゼンテーション

[関連科目] 造形演習・表示論・基礎デザイン・製品デザイン論

[履修要件] プロデザイナーを目指す意欲のある学生

T1P016001

授業科目名：環境デザイン I

科目英訳名：

担当教員：(藤本 香), (中西 利恵), 佐藤 公信

単位数：3.0 単位

開講時限等：2 年前期金曜 4 限後半 / 2 年前期金曜 5 限

授業コード：T1P016001, T1P016002

講義室：工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2008 年入学生：専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 演習・実習

[受入人数] 40 名程度

[受講対象] 環境デザイン 1 以降を受講希望するものは、必ず単位を取得しなくてはならない。

[授業概要] 様々な環境の中で、意図する空間のイメージを実際のデザイン提案として具体化するための方法について、空間計画の基礎、および平面表示技法をあわせて演習を行う。

[目的・目標] 空間デザインを行うために必要な基礎を講義・演習を通して理解し、的確な空間表現技法を習得する。講義では、各種技法の理論的側面を、演習では、各種図面の描き方及び透視図法の着彩技法までを体系的に学ぶ。

[授業計画・授業内容]

1. スケッチパース 正確なスケール感のあるスケッチパース 1
2. スケッチパース 正確なスケール感のあるスケッチパース 2
3. インテリアスペースデザイン インテリアデザイン概要
4. スペースレイアウト WS 机椅子などを利用したスケール感の体得と基本図面作成
5. インテリアスペースデザイン 設計指導 1
6. インテリアスペースデザイン 設計指導 2
7. インテリアスペースデザイン 模型・模型写真・3DCAD 概要 ボリューム模型作成
8. インテリアスペースデザイン 設計指導 3
9. インテリアスペースデザイン 作業個別相談
10. プレゼンテーション 設計プレゼン・講評
11. フィニッシュパース ラインドロー：上記デザインのパースペクティブ作成
12. フィニッシュパース 着彩：上記デザインのパースペクティブ作成 1
13. フィニッシュパース 着彩：上記デザインのパースペクティブ作成 2
14. フィニッシュパース 着彩：上記デザインのパースペクティブ作成 3
15. 合評会 図面・パース・ボリューム模型を元にしたプレゼン

[キーワード] インテリアデザイン、スペースデザイン、リビングデザイン

[教科書・参考書] 参考資料は授業中に配布。第 1 回目の授業から演習作業を行うので、「PMパッド、筆記用具、三角スケール、三角定規 2 つ、直定規」は必ず持参のこと。

[評価方法・基準] 1/3 以上の欠席・課題が一つでも不足の場合は不可。30 分以上の遅刻は欠席と見なす。

[備考] 平成16年度まで開講されていた「環境デザイン製図演習」の読み替え科目である。「生活環境デザインⅠ」の読み替え科目である。

T1P017001

授業科目名：コミュニケーションデザインⅠ 科目英訳名：Communication DesignⅠ 担当教員：玉垣 庸一, (小城 浩之), (西田 幸生) 単位数：3.0 単位 授業コード：T1P017001, T1P017002	開講時限等：2 年前期水曜 4,5 限 講義室：工 2 号棟 202 教室
---	--

科目区分

2008 年入学生：専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 基礎的なデザイン課題制作を通じて、後のセメスターに展開される授業への準備、動機付けを行う。

[目的・目標] 多様なコミュニケーションメディアに携わるデザイナーとしてデザイン学科の学生にどのような研究能力が期待されているのか、またどのような表現技術が期待されているのかを提示し、後のセメスターに展開される授業への導入、動機付けを行うことが目的である。

[授業計画・授業内容] 第1週～第8週(小城浩之非常勤講師+玉垣)「はデジタルデザインの基礎、第9週～第15週(西田幸生非常勤講師+玉垣)はグラフィックデザインの基礎を学ぶ。

1. 第1課題の説明デジタルデザインとプログラミング1
2. デジタルデザインとプログラミング2
3. デジタルデザインとプログラミング3
4. デジタルデザインとプログラミング4
5. プレゼンテーション
6. 第2課題の説明デジタルデザインと色彩1
7. デジタルデザインと色彩2
8. デジタルデザインと色彩3
9. 第3課題の説明造形要素の基礎1
10. 造形要素の基礎2
11. アイデアの視覚化
12. ラフの絞り込み
13. カンプ展開
14. アプリケーション展開
15. プレゼンテーション、合評

[キーワード] グラフィックデザイン、デジタルデザイン、プログラミング、色彩情報、シンボルマーク

[教科書・参考書] 授業にて紹介

[評価方法・基準] 出席状況および課題提出

[備考] 平成19年度まで開講されていた「メディアデザインⅠ」の読替科目

T1P018001

授業科目名：デザイン科学演習Ⅰ 科目英訳名： 担当教員：青木 弘行, 久保 光徳, 寺内 文雄, 田内 隆利, 勝浦 哲夫, 下村 義弘, 日比野 治雄, 小山 慎一, 岩永 光一, 中西 美和 単位数：3.0 単位 授業コード：T1P018001, T1P018002	開講時限等：2 年前期月曜 1 限後半 / 2 年前期月曜 2 限 講義室：工 2-アトリエ (2-601)
---	---

科目区分

2008 年入学生：専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 本授業では、材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の4つのデザイン科学分野について演習を行う。演習では、各分野が設定したテーマに関する実験や実習を行い、その内容と成果をまとめたプレゼンテーションを行う。

[目的・目標] 材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の4つのデザイン科学分野について、デザインにおける基本的役割を理解するとともに、デザインにおける科学的アプローチの基礎的な知識と手法を修得することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 受講者を4グループに分けて実施する。各グループは、材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の4つの演習をグループ単位で3週間ずつ順次受講する。4つの演習の順序はグループによって異なる。第1週は、グループ分け、各演習の課題の説明を行い、第14・15週はグループごとに4つの演習内容・成果の発表および質疑応答を行う。

1. ガイダンス
2. 材料計画演習(1)
3. 材料計画演習(2)
4. 材料計画演習(3)
5. 人間生活工学演習(1)
6. 人間生活工学演習(2)
7. 人間生活工学演習(3)
8. デザイン心理学演習(1)
9. デザイン心理学演習(2)
10. デザイン心理学演習(3)
11. 人間情報科学演習(1): ヒューマンインタフェース実験入門
12. 人間情報科学演習(2): ヒューマンインタフェース実験入門
13. 人間情報科学演習(3): ヒューマンインタフェース実験入門
14. プレゼンテーション
15. プレゼンテーション

[評価方法・基準] 各演習課題に関するレポート、プレゼンテーションによって評価する。

[関連科目] デザイン科学I、デザイン科学II

[履修要件] デザイン科学演習IIを履修するためには、この科目を履修すること。

[備考] 大学院への進学を予定する学生には、履修を強く推奨する。

T1P019001

授業科目名：工業デザインII 科目英訳名： 担当教員：渡邊 誠, (大木 雅之), (池田 稔), (須曾 公士), (大澤 隆男) 単位数：3.0 単位 開講時限等：2年後期木曜4限後半 / 2年後期木曜5限 授業コード：T1P019001, T1P019002 講義室：工2-アトリエ(2-601)

科目区分

2008年入学生：専門選択必修F20(T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 具体的な製品のデザイン演習を通じ、プロダクトデザインの実践的プロセスを習得。

[目的・目標] 工業デザインIIでは、プロダクトデザイナーとして必要な知識や表現方法を習得する。様々な制約を勘案しながら、最適なデザインを探索し、導き出す能力の習得を目標とする。

[授業計画・授業内容] 基本的に毎回課題の発表と意見交換を行い、プレゼンテーション能力とコミュニケーション力の向上を目指す。

1. 講師紹介, 課題・演習プロセス説明, デザインプロセス事例紹介
2. ターゲットユーザー, 課題, デザインコンセプト立案
3. ターゲット, 課題, コンセプトF I X
4. アイデア, ラフスケッチ, ラピッドプロトタイプチェック
5. アイデア方向性F I X

6. アイデア詰め, ラフモック, 3面スケッチチェック
7. アイデア詰め, ラフモック, 3面スケッチチェック
8. 工場見学
9. アイデア, 構成 F I X
10. アイデア, 構成フォロー, 詳細デザインチェック
11. 基本デザイン F I X
12. 筋電図?
13. 筋電図?, 詳細デザインチェック, 最終モック造り方確認
14. 詳細デザインチェック・最終モック造り方確認
15. 詳細デザインチェック・最終モック造り方確認
16. 最終プレゼンテーション

[評価方法・基準] 課題提出およびプレゼンテーション

T1P020001

授業科目名: トランスポーターデザイン II
 科目英訳名:
 担当教員: (野村 薫), 八馬 智
 単位数: 3.0 単位
 開講時限等: 2 年後期木曜 3 限 / 2 年後期木曜 4 限前半
 授業コード: T1P020001, T1P020002
 講義室: 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分

2008 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[目的・目標]

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

T1P021001

授業科目名: 環境デザイン II
 科目英訳名:
 担当教員: 佐藤 公信
 単位数: 3.0 単位
 開講時限等: 2 年後期金曜 3 限 / 2 年後期金曜 4 限前半
 授業コード: T1P021001, T1P021002
 講義室: 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分

2008 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[目的・目標]

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

T1P022001

授業科目名: コミュニケーションデザイン II
 科目英訳名: Communication Design II
 担当教員: (海保 透), (木村 博之), (児山 啓一)
 単位数: 3.0 単位
 開講時限等: 2 年後期水曜 4 限後半 / 2 年後期水曜 5 限
 授業コード: T1P022001, T1P022002
 講義室: 工 2 号棟 103 教室
 (授業時間 15:15 ~ 17:40)

科目区分

2008 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] エディトリアルデザイン、インフォメーショングラフィックス、サインデザインについて学ぶ。

[目的・目標] 視覚情報が書籍、新聞紙面、公共サインなどの異なった表現媒体においてどのように扱われるのかを学び、それらのメディアに適した表現技術を体得することが目的である。

[授業計画・授業内容] 第1週～第5週 エディトリアルデザイン(海保) 第6週～第10週 インフォメーショングラフィックス(木村) 第11週～第15週 サインデザイン(見山)

1. 講義1 = 概要1 レイアウトシステムの基本設計：事例の紹介・解説 課題-1(基礎編)説明
2. 講義2 = 概要2 文字組の基礎：事例の紹介・解説 制作1 = 課題-1 実習作業(内容検討・展開・報告)
3. 制作2 = 課題-1 提出+全体的な検証・講評 課題-2(応用編)説明
4. 制作3 = 課題-2 実習作業(内容検討・展開・報告)
5. プレゼンテーション = 課題-2 提出+講評・総括
6. 第2課題説明
7. アイデア展開演習1
8. アイデア展開演習2
9. アイデア展開演習3
10. プレゼンテーションと合評
11. 第3課題の説明
12. 事例調査と検討事項の絞り込み
13. デザイン改良案の検討
14. 表現要素の検証
15. プレゼンテーションと合評

[キーワード] エディトリアル、インフォメーショングラフィックス、公共サイン

[教科書・参考書] 授業にて紹介

[評価方法・基準] 出席状況および課題提出

[備考] 平成19年度まで開講されていた「メディアデザインII」の読替科目

T1P023001

授業科目名：デザイン科学演習 II

科目英訳名：

担当教員：青木 弘行, 久保 光徳, 寺内 文雄, 田内 隆利, 勝浦 哲夫, 下村 義弘, 日比野 治雄, 小山 慎一, 岩永 光一, 中西 美和

単位数：3.0 単位

開講時限等：2年後期金曜1限後半 / 2年後期金曜2限

授業コード：T1P023001, T1P023002

講義室：工2-アトリエ(2-601)

科目区分

2008年入学生：専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 本授業では、材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の4つのデザイン科学分野について演習を行う。演習では、各分野が設定したテーマに関する実験や実習を行い、その内容と成果をまとめたプレゼンテーションを行う。

[目的・目標] 材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の4つのデザイン科学分野について、デザインにおける基本的役割を理解するとともに、デザインにおける科学的アプローチの基礎的な知識と手法を修得することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 受講者を4グループに分けて実施する。各グループは、材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の4つの演習をグループ単位で3週間ずつ順次受講する。4つの演習の順序はグループによって異なる。第1週は、グループ分け、各演習の課題の説明を行い、第14・15週はグループごとに4つの演習内容・成果の発表および質疑応答を行う。

1. ガイダンス
2. 材料計画演習(1)
3. 材料計画演習(2)
4. 材料計画演習(3)

5. 人間生活工学演習 (1)
6. 人間生活工学演習 (2)
7. 人間生活工学演習 (3)
8. デザイン心理学演習 (1)
9. デザイン心理学演習 (2)
10. デザイン心理学演習 (3)
11. 人間情報科学演習 (1)
12. 人間情報科学演習 (2)
13. 人間情報科学演習 (3)
14. プレゼンテーション
15. プレゼンテーション

[評価方法・基準] 各演習課題に関するレポート、プレゼンテーションによって評価する。

[関連科目] デザイン科学 I、デザイン科学 II、デザイン科学演習 I

[履修要件] デザイン科学演習 III を履修するためには、この科目を履修すること。

[備考] 大学院への進学を予定する学生には、履修を強く推奨する。

T1P024001

授業科目名： デザインの展望

科目英訳名：

担当教員： 佐藤 公信

単位数： 2.0 単位

授業コード： T1P024001

開講時限等： 2 年後期火曜 5 限

講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2008 年入学生： 専門選択科目 F36 (T1P:デザイン学科)

[目的・目標]

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

T1P025001

授業科目名： ヒューマンインタフェース論

科目英訳名：

担当教員： 岩永 光一, 中西 美和

単位数： 2.0 単位

授業コード： T1P025001

開講時限等： 2 年後期水曜 2 限

講義室： 工 2 号棟 201 教室

科目区分

2008 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 学部他学科生 履修可

[授業概要] 本科目では、人間と道具・システムとの界面を構成するヒューマンインタフェースについて、そのデザインにおいて考慮すべき人間特性を、生理、形態、心理の視点から解説する。また、ヒューマンインタフェースのデザインプロセスと手法、ヒューマンインタフェース研究の現状についても解説を行う。

[目的・目標] ヒューマンインタフェースの成り立ち、現状、デザインにおける人間特性への配慮の重要性を理解するとともに、ヒューマンインタフェースデザインの実践に必要な基本的な知識の獲得を目指す。

[授業計画・授業内容]

1. ヒューマンインタフェースの成り立ち：人間要素と人工物要素
2. ヒューマンインタフェースの分類と特徴：物理的インタフェースと認知的インタフェース
3. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性 (1)：視覚

4. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性 (2): 聴覚
5. 中間試験 (1)
6. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性 (3): 体性感覚
7. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性 (4): 味覚・嗅覚
8. ヒューマンインタフェース研究のトピックス (1)
9. ヒューマンインタフェース研究のトピックス (2)
10. 中間試験 (2)
11. VDT 作業におけるヒューマンインタフェース (1) : 操作系インタフェース
12. VDT 作業におけるヒューマンインタフェース (2) : 表示系インタフェース
13. VDT 作業におけるヒューマンインタフェース (3) : マルチユーザインタフェース
14. 実社会における HCI(Human Computer Interaction)
15. ヒューマンインタフェースの評価技法

[キーワード] ヒューマンインタフェース, 人間特性, デザイン

[教科書・参考書] 授業中に指示する。

[評価方法・基準] 中間試験 (1) (2) およびレポートの成績の平均点によって評価する

[関連科目] デザイン科学 I、デザイン科学 II

T1P026001

授業科目名: デザイン材料

科目英訳名:

担当教員: 青木 弘行, 寺内 文雄

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 2 年後期水曜 3 限

授業コード: T1P026001

講義室: 工 2 号棟 201 教室

科目区分

2008 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 75 名

[受講対象] デザイン学科 2 年生

[授業概要] デザインと技術開発との関連を基盤に据え、各種デザイン材料に要求される内容を体系的に理解する。また、材料計画の視点に立脚して感性情報処理に関する内容を検討する。

[目的・目標] デザイン材料に関する基礎的な素養を身につける。

[授業計画・授業内容]

1. プラスチック材料
2. プラスチック材料
3. プラスチック材料
4. プラスチック材料
5. 金属材料
6. 金属材料
7. セラミック材料
8. 木質材料
9. 木質材料
10. 先端材料
11. 感性情報処理
12. 感性情報処理
13. 感性情報処理
14. 材料開発、材料関連技術の動向と方向性
15. テスト

[教科書・参考書] 「工業デザインのための材料知識」, 岩井, 青木著, 日刊工業新聞社 / その他は授業時に指示する。

[評価方法・基準] 出席数、レポートの提出の内容、テストによる授業の理解度

[関連科目] デザイン科学 I

T1P027001

授業科目名: デザイン文化論

(学部・放送大学・千葉圏域・千葉工大開放科目)

科目英訳名:

担当教員: 鈴木 直人, 植田 憲

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 2 年後期火曜 2 限

授業コード: T1P027001

講義室: 工 2 号棟 201 教室

科目区分

2008 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] デザインが人類社会の生活文化形成に果たしてきた諸相を、歴史的ならびに国内外の具体的事例に基づきながら検討する。また、今日的な具体的課題と連動させながら、デザイン実践のなかで堅持していくべき生活文化創生の理念・哲学について考察する。

[目的・目標] デザインに携わる者には、生活の「あるべき姿」をいかに描くかがきわめて重要である。本講義においては、生活文化の「これまで」と「いま」の諸相の把握・解析を通して、生活の「あるべき姿」を構築するための視座の提起、ならびに、生活の「あるべき姿」の実現に向けてのデザイン活動の認識を涵養する。

[授業計画・授業内容]

1. 文化としてのデザインの今日的課題～「人心の華」としてのデザイン
2. 生活文化の構造～ケとハレのデザイン
3. 生活文化の構造～変容のメカニズム
4. 生活用具のデザイン～プリコラージュ
5. 生活用具のデザイン～一物全体活用
6. 生活用具のデザイン～一器多用
7. 生活用具のデザイン～資源循環
8. 地域の生活づくりデザイン～ものづくりを通じた生き甲斐づくり
9. 地域の生活づくりデザイン～基礎理念 1
10. 地域の生活づくりデザイン～基礎理念 2
11. 伝統と現在・未来～生きた伝統技術とデザイン
12. 伝統と現在・未来～創新技術とデザイン
13. デザインの方法論～内発的要素(宝物さがし)に基づくデザインサーベイ
14. 文化としてのデザインの展望
15. テスト

[キーワード] デザイン, 生活文化, 伝統的価値, 伝統技術とデザイン, 哲学

[教科書・参考書] 授業のなかで紹介します。

[評価方法・基準] 各授業ごとに小テストを実施します。出席数、レポート、小テスト、テストを総合して評価します。

[関連科目] デザイン文化計画演習

[備考] 「デザイン文化計画研究室」にて卒業研究を希望する学生は、必ず履修してください。

授業科目名：プログラミング演習 I

科目英訳名：

担当教員：中西 美和

単位数：3.0 単位

授業コード：T1P028001, T1P028002

開講時限等：2 年後期金曜 4 限後半 / 2 年後期金曜 5 限

講義室：工 2 号棟 201 教室

(授業時間 15:15-17:40)

科目区分

2008 年入学生：専門選択科目 F36 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・実習

[授業概要] C 言語は、多種あるプログラミング言語の中でも土台となる言語です。言い換えれば、C 言語の基礎を習得することによって、今後、研究や仕事で必要となる言語をマスターすることが飛躍的に容易になります。本授業では、講義と実習を交えながら、プログラミングを行う上での考え方とテクニックを学びます。

[目的・目標] 各自が自分自身の力で、C 言語によるプログラムを書けるようになることを目標とします。(半期の授業を終えた頃にはおそらくそうなっています。)

[授業計画・授業内容] 以下の授業計画は、みなさんの進度等に応じて、随時、変更することがあります。

1. プログラミングのための環境準備
2. C 言語プログラムの基本構造
3. 変数の利用、データ入出力
4. プログラミング総合演習 (1)
5. 演算子
6. 制御文
7. 関数の作成、記憶クラス
8. プログラミング総合演習 (2)
9. 配列とポインタ
10. 構造体
11. プリプロセッサ
12. プログラミング総合演習 (3)
13. 標準ライブラリ関数
14. ファイル入出力
15. プログラミング総合演習 (4)

[キーワード] C 言語

[教科書・参考書] C 言語に関する参考書は数多く出版されていますし、web 上でもソースが数多く公開されていますので、必要に応じて自分に適したものを選んでください。

[評価方法・基準] 数回のレポート (プログラムソースとその説明) の総合で評価します。

[備考] 各自必ず PC を持参すること。(バッテリーを十分に充電しておくこと。) Mac OS でも可だが、Windows を利用できる環境にしておく方が便利。

授業科目名：平面デザイン造形

科目英訳名：

担当教員：田内 隆利, 玉垣 庸一, 桐谷 佳恵, (小林 基輝)

単位数：3.0 単位

授業コード：T1P029001, T1P029002

開講時限等：2 年後期月曜 1 限後半 / 2 年後期月曜 2 限

講義室：工 2 号棟 101 教室, 工 2-アトリエ (2-601),
工 2 号棟 101 教室, 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2008 年入学生：専門選択科目 F36 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 演習

[受入人数] 70

[授業概要] 色彩構成及び人物の描写を行い、高度な平面造形力を身につける

[目的・目標] この授業は1セメで行ったデザイン造形実習1の内容を発展または補完させたものである。この授業ではより高度な色彩の理解、色彩表現力、平面構成力、描写力を養い、さらにそれらを統合した平面造形力を養うことを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 色の三要素を使った画面構成
2. 同上
3. 同化と対比を使った画面構成
4. 同上
5. 手と顔のデッサン
6. 人物クロッキー
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 顔を描く
11. 同上
12. 構成絵画 1
13. 同上
14. 構成絵画 2
15. 課題の続き及び講評

[教科書・参考書] 授業にて紹介

[評価方法・基準] 各課題の期限内提出の有無及び課題目的への達成度。出席 4/5 以上が条件。